

平成23年度 第4回 歯学教育FD／ICT活用研究委員会
議事概要

I. 日時 平成24年2月23日(木) 13:30～15:30
場所 公益社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 神原委員長、花田委員、新井委員、藤井アドバイザー、奥村アドバイザー
(事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

歯学コアカリキュラム実現のための歯学における教育改善モデルについて、アンケート結果を踏まえて見直し、修正を行った他、モデル授業の点検・評価・改善についても検討し、案を作成した。

1. 教育改善モデル案について

- ・到達目標の実現のためには、ICTでは解決しないとの指摘があり、他分野と同様に、他分野でも同様の指摘があるため、タイトル「2.3 ICTを用いた授業シナリオ」を「2.3 対面とICTを用いた授業シナリオ」に修正した。同様に、「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」を「2.4 対面とICTを用いた学習内容・方法」、「2.5 ICTを用いて期待される効果」を「2.5 対面とICTを用いて期待される効果」、「2.6 ICTを用いた学習環境」を「2.6 対面とICTを用いた学習環境」に修正することを確認した。また、本文の中にある「ネット上で」の前には「対面と」を挿入することにした。
- ・口腔疾患の予防が全身の健康に重要であることを認識させるためには、口腔疾患が全身疾患に及ぼす影響に関する基本的知識を様々な角度から検証し、理解させる必要があるとの指摘を受けて、「2.3 対面とICTを組み合わせた授業シナリオ」の「③ 現場情報や模擬患者(SP)を用いて」の冒頭に「③ 口腔疾患の予防が全身の健康に重要であるという認識を持たせるため、」を追加することにした。合わせて、「2.4 対面とICTを組み合わせた学習内容・方法」の「④ 歯科疾患予防に必要な個人のリスク評価を、口腔内環境とライフスタイルで実際に評価させ、医学分野との連携によるネット上のPBL型協同学を行い、」を「④ 口腔疾患のリスク因子が生活習慣病と共通していることを口腔内環境とライフスタイルで実際に評価させ、全身の健康と口腔の健康との関連について対面とネット上のPBL型学習を行い、」に修正した。
- ・「人間」より「ヒト」の表記が適切ではないかとの指摘を受け検討した結果、「人間」や「人類」を入れなくても意味は通じることから、「1. 到達度として学生が身につける能力」①説明「* 人間の生涯を通じた」から「人間の」を削除、④説明「* 人類の歯科疾患予防」から「人類の」を削除、「2.3 対面とICTを組み合わせた授業シナリオ」の⑤にある「人間の健康」から「人間の」を削除することにした。
- ・「1. 到達度として学生が身につける能力」に口腔疾患として、齲蝕、歯周疾患、不正咬合が設定されているので、この3項目についてICTがどのように利用できるか示せばよいのではないかとの意見があり、今後の冊子に例示として入れることを確認した。
- ・高齢者の声を視聴させる以外に保育士や母親の声も聞かせてはどうかという提案があったが、予防の重要性わかりやすくするため、モデルでは高齢者を例示しているため、意見は特に反映しないことにした。
- ・PBL形式で行った情報をどのように整理し、学習ポートフォリオに蓄積するのか、また、学習評価の定量化のシステム構築、評価システムが学生の知識に寄与するのか知りたいとの意見があったため、冊子では説明を加えることにした。

その他、委員会で見直しを行い、以下の点をさらに修正した。

- ・「2.2 授業の仕組み」「2.5 ICTを用いて期待される効果」「2.6 ICTを用いた学習環境」にある「医学分野との連携」については、連携は医学分野だけではないことから、「保健・医療・福祉・栄養などの分野との連携」に修正した。
- ・「2.2 授業の仕組み」の到達度の確認は、「臨床能力教育課程の中で評価する。」から「患者の生活指導を通じて評価する。」に修正した。
- ・「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」の「① ビデオをWeb上に用意し、」の他に「対面でインタビューしたり、Web上のビデオを視聴させることで、」と追加修正した。また、「④ 歯科疾患予防に必要な

個人のリスク評価を、」を「④ 口腔疾患のリスク因子が生活習慣病と共通していることを」に修正し、全身の健康との関連性を強調した。

2. 授業の点検・評価・改善について

本モデルは、口腔疾患予防に関わる総合的な問題解決能力を身につけ、全身の健康を維持する上で重要であることを実感させることを目的として、他分野との連携を通じて PBL 型学習を行い、教員連携やファシリテータによる支援と、学習ポートフォリオによる学習の自己点検を行う提案であることを踏まえ、授業の点検・評価・改善については以下の通り作成した。

「3. 授業の点検・評価・改善」

この授業の点検・評価・改善は、担当する教員側が対面やネット上での PBL 型学習の達成度評価シートと学習ポートフォリオや学生からの意見等をネット上で他分野の教員と共有し、批判的な意見も取り入れた交流を通じて、カリキュラムの在り方や授業計画などについて改善を行う。

なお、総合的な視点に基づく振り返りを行うため、大学間コンソーシアムを通じて意見交流を行い、中立的な立場からの示唆を受ける。

3. 今後のスケジュールについて

来年度は、本モデルの授業を実現するための「教員の教育力」について検討し、その後、モデルを冊子として提言するために、骨子のモデルに説明文章や授業の例示、イメージ図・表、などを追加していくことを確認した。

以上